

学校教育目標	主体的に生きる人間の育成
目指す学校像	(1) 学校・家庭・地域が連携し、きれいで誰もが安心・安全に過ごせる学校 (2) 誰一人取り残すことなく、個に応じた教育を実践する学校 (3) 生徒が変化の激しい社会を生き抜くために必要な力を身につけ、社会の一員として行動できる人材を育成する学校 (4) 教職員が力を結集し、「チーム土呂」として前進する学校
重点目標	1 「主体的・対話的で深い学び」による学力向上 2 誰もが安全で安心して生活できる学校作り 3 コミュニティ・スクールの機能をいかし、地域とともに歩む学校作りの推進 4 授業公開、研修とICT活用を通じた教師力アップ

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

		学校自己評価				年度評価		学校運営協議会による評価	
		年度目標				年度評価		実施日令和 年 月 日	
		現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
学びの質の向上に関する取組	1	【学力向上に関する取組】(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・数学ともに全国・市平均と比較して上回り概ね良好である。 ○日々の授業態度については良好で学習にしっかりと取り組んでいる生徒が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果において、 ・国語では「自分の考えの基になった発言や話し合いの内容を整理して述べること」に若干の課題がある。 ・数学では「場面に適した代表値の活用」に若干の課題がある。 ○SDGsに関連した「食育」についての学習を通して、地域や社会をよくするための活動の実施	・「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向けた授業改善と学習端末の有効活用	①話し合い活動を充実させ、何についてどのような目的で話し合っているのか意識させる。 ②目標に応じてデータを収集して分析し、データの傾向を読み取る活動ができるように指導する。 ③ICTを効果的に活用するための校内研修を実施し、研究成果を共有する。	①学習状況調査の結果で、自分の考えをまとめ、基になった発言や話し合い活動の内容を整理して述べる事ができたか。 ②学習状況調査の結果で、問題を解決するために計画を立て、データの分析の傾向を捉えることができたか。 ③学校評価において、ICTの効果的な活用が行われたか。前年度より向上	①学習状況調査から言葉の特徴や使い方に関する事項で市平均よりやや高く、話すこと・聞くことの事項では市平均より高く、書くことでは市平均より3ポイント以上、上回っていた。 ②データの活用の事項では、市平均より3ポイント以上、上回っていた。しかし、関数に関する事項では市平均より下回り、今後の学習により一層取り組んでいきたい。 ③ICTの効果的な活用について、肯定的な評価が多く、前年度より向上した。	A	・校内研修や授業公開を通して、授業改善を進めていく。 ・データの分析から、文章の展開の効果について書くことはできるが、理由を書く際、物語の内容を取り上げているものの、本問で着目している展開を踏まえて書くことができていないため、問題をよく理解してから回答できるように指導していく。 ・ICTの効果的な活用については、デジタル学習基盤を活用して学びの改革に努める。	○学びの質の共通化： ・授業冒頭の目標明示→小テスト→相互採点→振り返りなど、共通構造の整備で質の保証をしていく。 ・ICTの活用は良いが、基本となる授業の目当てなどの表示を徹底したほうが良い。 ・生徒は学習面でも頑張っている。 ・スタディサプリは継続(切り捨てが起きない運用を学校として重視)。 ・授業に遅れがちな生徒への対応をしっかりとしていく。
		○前年度まで教室に入れなかった生徒が、新学期より教室復帰している生徒が複数いる。 ○教育相談部会を中心として、不登校傾向の生徒の相談・指導を組織的継続的に行うことができる。 (課題) ○自己肯定感の低い生徒への支援とその体制づくりの強化 ○SNS等でのトラブルが発生している。	・生徒一人ひとりの細やかな寄り添いができる教職員の育成	①いじめの未然防止、早期発見、積極的な初期対応を適切に行う。 ②教育相談の共通理解のもと、不登校生徒と学校との関わりを作り、個別最適な支援を実施する。新規不登校生徒を出さないための方策を研修する。	①日常生活の中で積極的に「あいさつ」を実施して意図的に会話を行い、生徒の状態や理解を深めることができたか。 ②おはようメーターの活用や個別面談を随時実施して、生徒の支援を行うことができたか。	①生徒会による「あいさつ運動」や学年の生活目標に「あいさつ」に取り組む意識づけを行った。その結果、生徒アンケートでも高評価を得られている。(生徒89.2%、保護者80.9%) 前年度より2.3ポイント向上 ②おはようメーターの活用について、2学期は全クラスで活用され、生徒支援のきっかけに活用できている。	A	・あいさつについて、保護者の評価と生徒の評価に於いて、おおむね高評価を上げることができた。次年度では、この結果を継続しつつ、いじめに対して早期発見・積極的な初期対応を進めて行く。 ・おはようメーターのさらなる活用を図るために、研修を実施し、関連された情報を活用していく。	
心のサポートに関する取組	2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】(現状) ○前年度まで教室に入れなかった生徒が、新学期より教室復帰している生徒が複数いる。 ○教育相談部会を中心として、不登校傾向の生徒の相談・指導を組織的継続的に行うことができる。 (課題) ○自己肯定感の低い生徒への支援とその体制づくりの強化 ○SNS等でのトラブルが発生している。	・安心。安全な学校生活ができる教育活動の充実	①生徒指導部会を中心に、情報共有を図り、早期対応を実施する。 ②土呂中学校いじめ防止基本方針に基づいた指導を徹底する。	①学校評価の保護者アンケートにおいて、「いじめのない学校づくりに取り組んでいる」項目、前年度より向上	①保護者アンケートについて、前年度より1.5ポイント下がってしまった。R7:82.7% Sora ルームの活用により、教育相談の対応が行われ、個別の学習が進められた。	B	・いじめのない学校づくりに取り組んできたが、おおむね肯定的な評価が得られている。次年度に向けて、教育相談、生徒指導と共に情報発信を行い、早期対応を実現していく。	○「心のサポート」とは何を指すのか： ・先生によって解釈が違うと、子供達が戸惑ってしまう。 ・困っている子の話をじっくり聞くことを重視する先生もいれば、困っている子に積極的にアドバイスや解決策を伝えることが大切だと考える先生もいる。 ・対応がバラバラにならないようにすべきだと思う。
		【地域とともにある学校づくりに関する取組】(現状) ○「学校、家庭、地域と一緒にできる取組」について、地域とともに生徒が活動する場が減少している。 ○地域の行事に少しずつボランティアでの参加がみられるようになってきた。 ○授業参観や学校行事の公開が進められている。 (課題) ○地域催事の生徒の参加が少ない傾向になっている。 ○教職員、生徒の地域催事への参加や地域貢献の方法について負担を少なくして実施していく。	・地域との連携を図り生徒の地域行事への参加を通じた地域貢献の推進	①地域のボランティア活動等を積極的に紹介し、生徒が自らの考えで地域の一員として活躍できるよう育成をする。 ②ボランティアに参加した生徒による報告会を集会や放送等で発表する。	①生徒の活動後にアンケートを実施し、地域の活動に協力することについての項目で肯定的な回答が優位となる。 ②地域の関係者へのアンケートを実施し、地域への活動参加についての項目で肯定的な回答が優位となる。	①ボランティア活動後のアンケートでは、やりがいを感じたと答えた生徒が96.4%であった。また、活動をまたやりたいと回答した生徒が79.5%になった。 ②地域の関係者へのアンケートでは、「ボランティアを頼むと決めた時の期待度と比べて、実施後の期待値の評価はどうでした」期待どおりが100%の回答が得られた。	A	・地域からのご意見や生徒からの意見も踏まえて、地域に貢献できる人材育成を目指して、さらに活動を進めて行く。 ・次年度に向けて、周知方法の改善、参加した生徒の報告会などを実施していく。 ・募集を依頼している側のボランティア活動内容についてもバージョンアップを期待する。	
地域とともにある学校づくりに関する取組	3	【教育環境の整備に関する取組】(現状) ○学校施設の安全・安心な環境の確保のために、職員、管理職、業務主査による点検を実施し、危険箇所の把握と対応はできている。 (課題) ○災害等発生時の学校全体の対応力の強化 ○登下校の交通安全指導の継続	・安全な学校生活ができる学校設備の維持・管理	①安全点検等において、破損箇所や修繕箇所を確認し、対応処置をとる。	①安全点検後、1週間以内に管理職や事務職員が該当箇所を確認し、対応できたか。	①安全点検の結果を基に修繕を実施できた。修繕できるものは業者に頼らず学校で修理するなど、マネジメントすることができた。	B	・開校30周年を迎え、老朽化してきている場所がいくつかある。教育委員会に要望を出しつつ、校内でできるものについては外部に発注するのではなく、自分たちで修繕していく。	○安全・環境： ・防災については教科横断的な対応を実施していく。 ・危険箇所(外灯・カーブミラー・標識等)の地域共有と連携要請を継続。 ・下校時の歩行マナーの一層の指導・見守りをしていく。
		○授業参観や学校行事の公開が進められている。 (課題) ○地域催事の生徒の参加が少ない傾向になっている。 ○教職員、生徒の地域催事への参加や地域貢献の方法について負担を少なくして実施していく。	・授業参観や学級懇談会、学校行事や部活動等の公開を通じた学校公開の推進	①授業参観、学級懇談会、学年保護者会、三者面談、進路説明会、スマホタブレット安全教室等保護者への学校公開の機会を増やす。 ②体育祭、合唱コンクール等の活動発表など地域にも公開を行う場の設定をして地域と共にある学校作りを進める。	①学校評価に係る保護者アンケートで、「学校の行事予定や生徒の様子について、懇談会や二者面談、学年だよりや学校だよりなどにより、分かりやすく伝えている」の肯定的評価が93%以上となったか。	①学校評価に係る保護者アンケートは92.3%でほぼ目標は達成したと考える。前年度比+0.4 ②学校公開、教育相談週間等、保護者が学校に来校して授業を見学できる場を設定することができた。	B	・学校の様子について、わずかだが前の年を上回った。次年度も、学校公開や保護者会などで生徒の活躍している姿を見ていただけては、「スマホ安全教室」や「薬物乱用防止教室」を保護者に公開していく。 ・学校だよりや学年通信など、紙での配布も継続していきながら、情報発信を行っていく。	
教育環境の整備に関する取組	4	【教職員の資質向上に関する取組】(現状) ○教育相談のための研修会や各教科の中心となる先生が授業力向上について研修している。 ○学校研究課題に組織的に取り組んでいる。 (課題) ○質の高い学びや深い学びに関する研修や取組が十分ではない。 ○保護者や地域はわかりやすい授業を望んでいる。	・教育相談や授業研究、教材研究、授業準備を行う	①校内研修計画に従い、教育相談や研究主題に対して、授業でどのような取組をしたか自分の実践や他教員の授業の参観を受け、教科会等で共有し良い手立てやワークシート、評価や成績などについて情報交換を行い資質の向上に取り組む。	①研修会を通して「教える」から「学ぶ」への授業改善の意識を持ち、「ICTを効果的に活用した魅力ある授業」の実現を目指し日常的にICTを活用する状況になったか。	①AIの活用や採点業務のICT化に向けた研修を実施し、教員の業務改善を図ることができた。 ②食育の研究を進めるために、研修会を実施したり、次期生徒用タブレットの活用方法について研修を行い、次年度に向けて準備を行った。	A	・「教える」から「学ぶ」への授業改善の意識改革について他の教員の授業を参観して研修を深めることができたが、次年度へ継続が必要だと考える。引き続き研修を行っていく。 ・多様性を認め合い、生徒が居心地の良いクラスや学校づくりを実現していく	○食育研究(令和8年度公開)： ・各教科の専門性を生かした授業化に期待。成果の可視化と共有をしていく。 ・来年度、県美術教員研修の全体会を盆栽美術館と連携して実施予定。
		○質の高い学びや深い学びに関する研修や取組が十分ではない。 ○保護者や地域はわかりやすい授業を望んでいる。	・年間の校内研修を通じた資質の向上の実現	①「学びの指標」等を活用した授業改善に取り組む。	①全ての教員が「個別最適な学び」や「協働的な学び」など「質の高い学び」や「深い学び」を実践することができたか。	①各教員が「学びの指標」を活用し、各教科ごとに研修をして、授業改善が行われた。本年度本校にて市教研英語科の研究授業を実施。	B	・各教科ごとの研修会の他、英語科の公開授業の実施などを通して、質の高い学びや深い学びについて、さらなる研修を実施していく。 ・Google ワークスの研修など、年度初めに生徒が戸惑うことがないように準備を進めて行く。	

学びの質の向上に関する取組

心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員の資質向上に関する取組